

日本ヤタガラス協会総会 2026年7月18日体育文化会館

基調講話「八咫鳥のルーツを探る」

山本 殖生



1 古代中国の三足鳥

* 三足鳥か？



半坡遺跡出土の彩陶土器(陝西省西安市)

BC5000~3000年

1-(1)十日神話と三足鳥

* 太陽の順調な運行→豊饒



馬王堆一号漢墓出土の帛画(湖南省長沙)
BC160年頃

◆『山海經』戦国

「海外東經」

○湯谷に扶桑

○十日浴する

○九日下枝

○一日上枝

「大荒東經」

○湯谷に扶木

○太陽が交代

して出る

○皆鳥(三鳥足)

を載す

1-(2) 日中の三足鳥

* 宇宙の秩序＝天空思想



針織歴墓出土の日月星宿画像石

(河南省唐河県) 前漢初期

◆『靈憲』 後漢

○太陽(陽気のエッセンスの
宗主)

○集積して鳥(三足)

○陽類→奇数

○月(陰気のエッセンス)

○集積して獣(兎とカエル)

○陰類→偶数

1-(3) 三足の意味

ガルーダのイメージ



日出 正午 日没

* 太陽の三歩

「トゥリビクラマ」←『リグウェーダ』(BC12~15世紀)

* 中国の陰陽道では

奇数(天・地・人の三極<聖数>)

☰陽

太陽=天=火=鳥(三足)

* 八卦

乾 ☰ → 天

離 ☲ → 火



鳥

2 朝鮮の三足鳥信仰

2- (1) 朝鮮の建国神話

* 天孫降臨神話

〔古朝鮮〕—檀君神話

○桓因(帝釈)—桓雄—檀君(太陽三神)

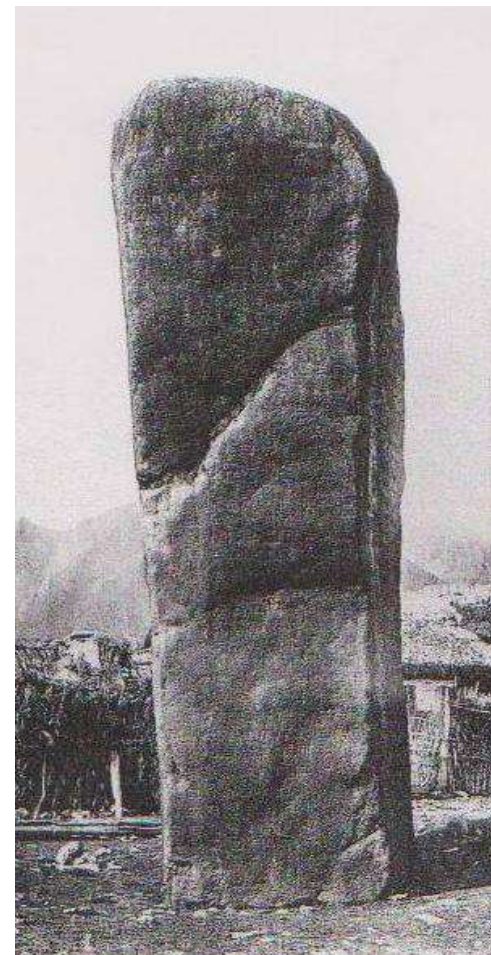
〔北扶余→東扶余〕

○天 ———— 解慕漱—解扶婁

〔高句麗〕 ———— 東明(朱蒙・鄒牟王)

◆ 広開土王碑銘

「惟昔 始祖鄒牟王之創基也 出自北扶余天
帝之子 母河伯女郎 剖卵隆世生・・・」



広開土(好太)王碑
(414年)

2-(2) 建国神話と太陽信仰

* 高句麗の建国神話



韓流ドラマ「朱蒙」

○東明王—卵生神話

・日光感精伝説

○朝鮮半島に卵生神話多い

○卵＝鳥＝太陽

○解xai＝太陽xai

○東明王＝衆解

○朝鮮半島の諸王国の神名・王名

「——解」「解——」

2-(3) 日本の建国神話との類似

* 日本と朝鮮における神話構造の対比

日 本		朝 鮮	
出雲国譲り	国譲りⅠ	国譲りⅠ	高句麗 建 国
天孫降臨	国譲りⅡ	国譲りⅡ	
神武東征	海兄と陸弟の国覓ぎ	国譲りⅢ	百濟建国
	海兄の死	海兄と陸弟の国覓ぎ	
	国譲りⅢ	海兄の死	
	陸弟の建国	陸弟の建国	

日 本		朝 鮮	
日向神話	山(天)と海の結婚	天と河の結婚	解慕嗽
	陸と海の分離	天と河の分離	
神武東征	亀(+の性格)	獣(-)	朱蒙 (東盟)
	獣(-の性格)	亀(+)	
	鳥(+の性格)	鳥(+)	

大林太良「神武東征伝説と百濟・高句麗の建国伝説」より

○高句麗の伸長

→天孫降臨神話の導入

○高句麗学問僧・画師・工人の来日→曇徴

○タカミムスヒ(5～7世紀)→アマテラス(8世紀～)

○日本神話の再構築

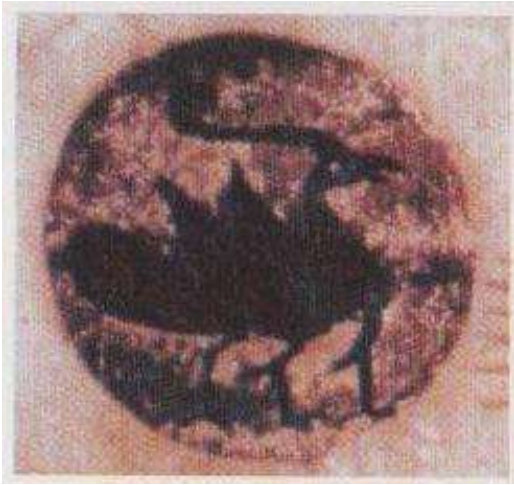
→天孫降臨・太陽信仰・三足鳥信仰の導入

2-(4) 高句麗壁画古墳中の日象文 (三足鳥)の形式分類

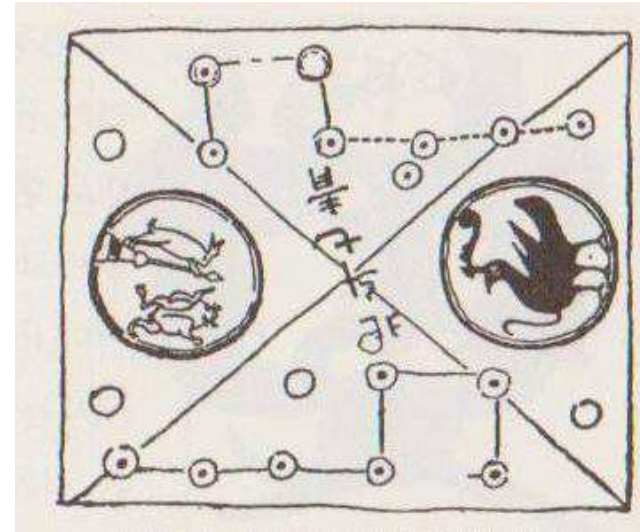
形式分類	集安地域	平壤地域
形式Ⅰ 翼をたたんで立つ玄鳥 (三足鳥)	角抵塚 5世紀初 舞踊塚 5世紀中 長川1号墳 5世紀中	天王地神塚 5世紀初 双楹塚 5世紀末 徳花里1号墳 6世紀初 徳花里2号墳 6世紀初
形式Ⅱ 翼を広げて立つ玄鳥 (三足鳥)	通溝四神塚 6世紀中 五盔墳4号墓 6世紀中 五盔墳5号墓 6世紀中	水山里四神塚 6世紀初 鎧馬塚 6世紀初～中 真坡里9号墳 6世紀中
形式Ⅲ 翼を広げて飛ぶ玄鳥		徳興里古墳 408年 江西中墓 6～7世紀初
形式Ⅳ 円で構成された日象文		伏師里壁画墳 5世紀初 星塚 5世紀末

キムチユミ 『韓民族と太陽の中の三足鳥』

(4)-①三足鳥の形式 I (集安)



角低塚



長川1号墳



舞踊塚



(4)-②三足鳥の形式Ⅱ(集安)



五盔墳4号墓



五盔墳5号墓



(4)-③三足鳥の形式Ⅲ(平壤)



徳興里古墳



江西中墓

＊真坡里9号墳
出土の冠帽



高さ15×幅32.8センチ



金銅透彫冠帽 6世紀末

2-(5) 新羅・加羅・百濟の三足鳥

○新羅(358～635年)

○加羅(369～562年)

○百濟(346～660年)

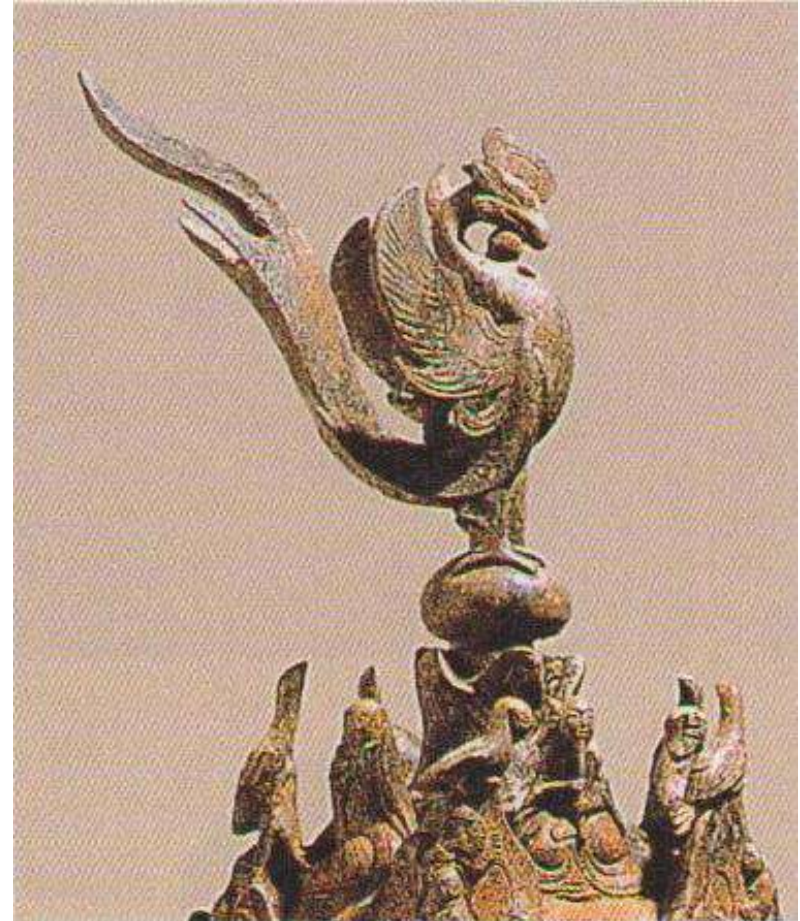
瑞鳳塚金冠鳳凰飾(5～6世紀)

月址双鳥文囟瓦当

武寧王陵鳳凰頭枕

百濟金銅大香爐(6～7世紀)

↓
* 鳳凰に形象化



百濟金銅大香爐

2-(6) 高麗時代(918~1392年)

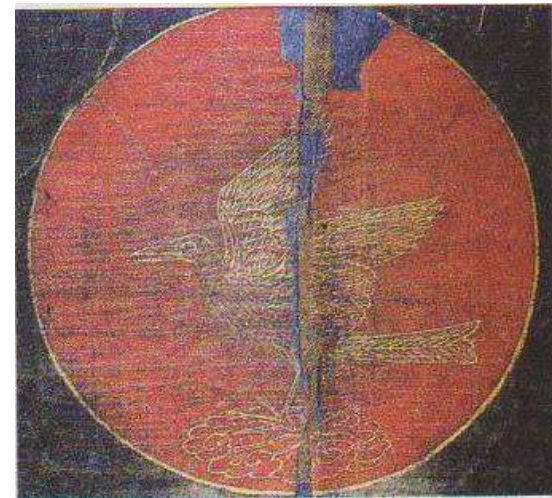


三宝名刺繡袈裟 (1087年?)

* 仏教遺物が中心



法泉寺址智光国師塔碑 (1085年)



京都知恩院観経变相図 (1323年)

2-(7) 朝鮮時代(1392~1910年)

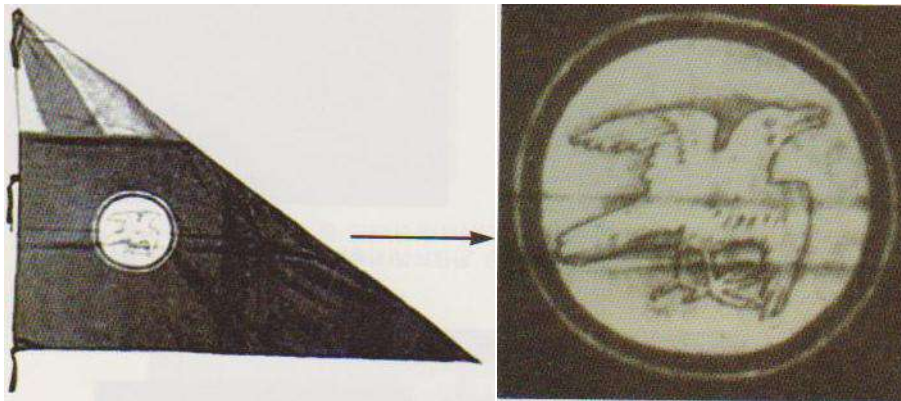


延城君李坤墓表 (1559年)

* 多様な日常生活に
浸透 (変容)



山陵都監儀軌 (1630年)



大韓帝国五星旗 (1897~1905年)

○三足→二足

○日月のみ

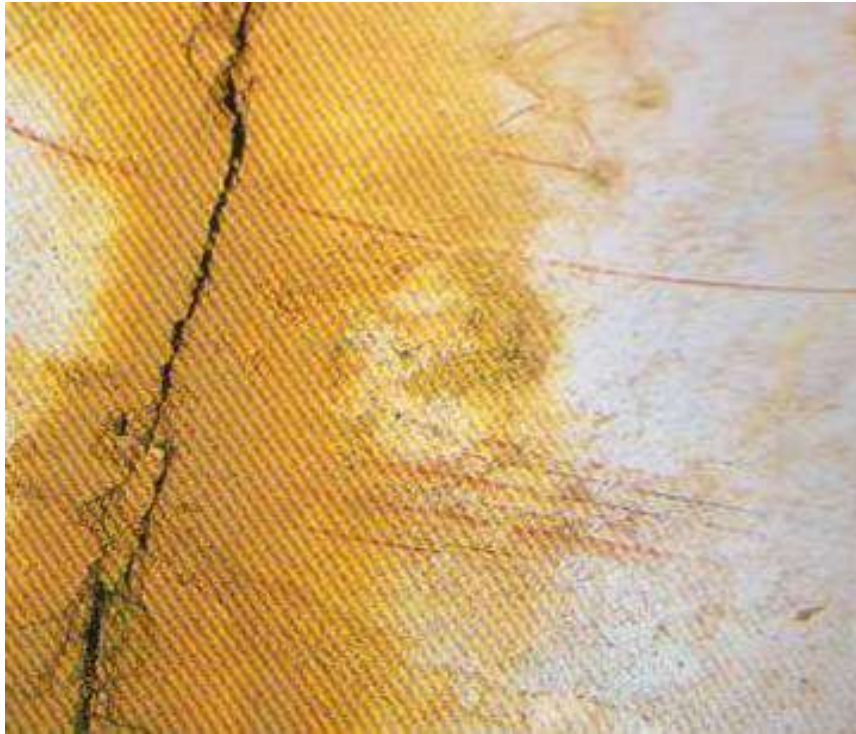
○三頭一足鷹

* 三足は朝鮮の日常文化

* 日が昇る東方の国朝鮮の象徴

3 古代日本の三足鳥

3-1(1)キトラ古墳の三足鳥？



キトラ古墳東壁

- 7世紀の築造
- 石槨内に壁画
- 天井に天文図、
東壁に日像（三足鳥？）

3－(2) 中宮寺の天寿国繡帳の月像



天寿国繡帳の月像

- 聖徳太子の浄土
往生のさまを描く
- 7世紀前半
- 下絵は渡来人の東漢末賢・
やまとのあやのまけん
こまのかせい 高麗加世溢・あやのぬかこり 漢奴加己利に
描かせた
- 残欠のため日像はない

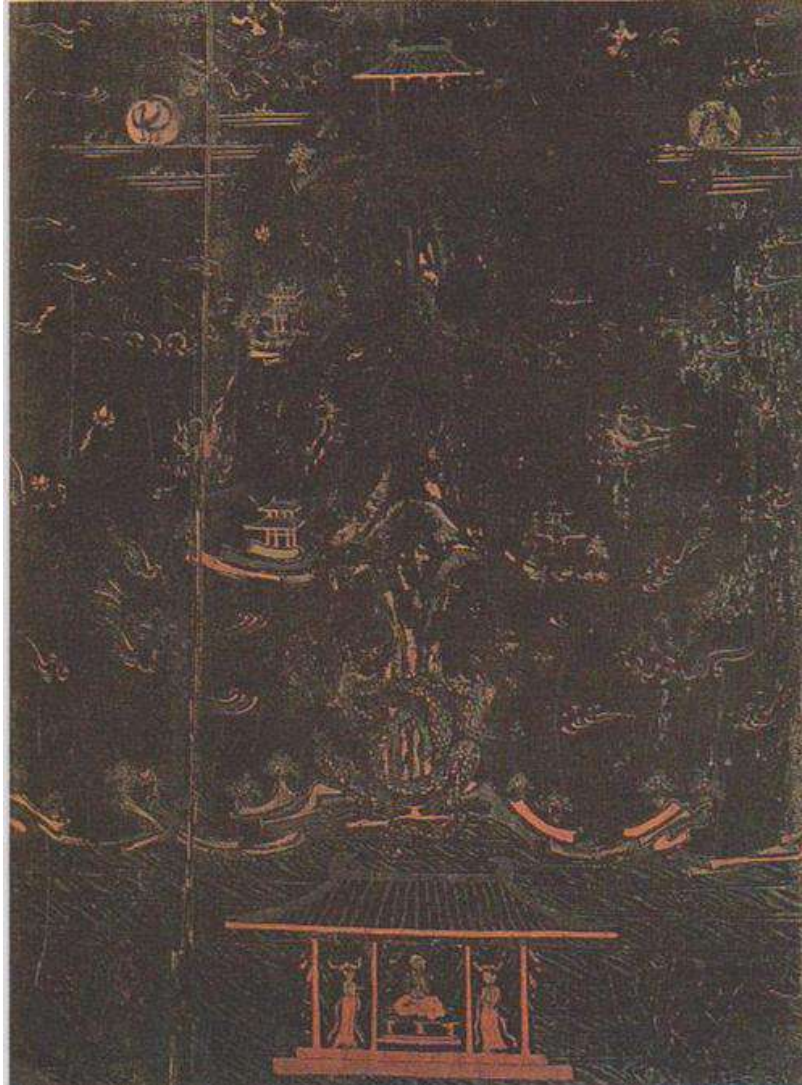
3－(3) 玉虫厨子の三足鳥①

- 国宝の宮殿型厨子
- 透彫金具の下に玉虫の羽
- 須弥座背面が須弥山世界
- 7世紀中頃の作か
- 朝鮮半島で製作？
- 材と玉虫は日本製



法隆寺玉虫厨子

3-(3) 玉虫厨子の三足鳥②



三足鳥(拡大)

須弥座背面の
須弥山図

3-(4) 朝廷の三足鳥(八咫鳥)信仰^{やたがらす}

A 朝儀の荘厳

▼紫宸殿

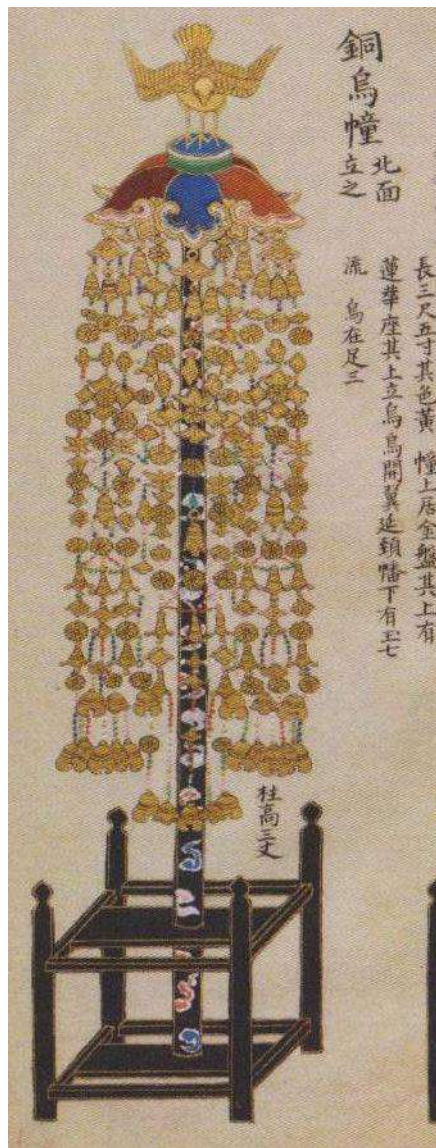
七本の宝幢

銅鳥幢▼ ▼日像幢



明正天皇御即位式図屏風 (ネルソン・アトキンス美術館)

B 朝儀の銅鳥幢と日像幢



* 三足鳥＝八咫鳥

◆「淳和天皇御即位記」

弘仁4年(823)4月
27日



「立八咫鳥日月形」

礼儀類典

C 天皇の礼服



孝明天皇ご礼服の大袖
(宮内庁)

○大袖の上衣
と裳(下袴)

○^{こんべん}袞冕十二章

上衣(八種)

下衣(四種)

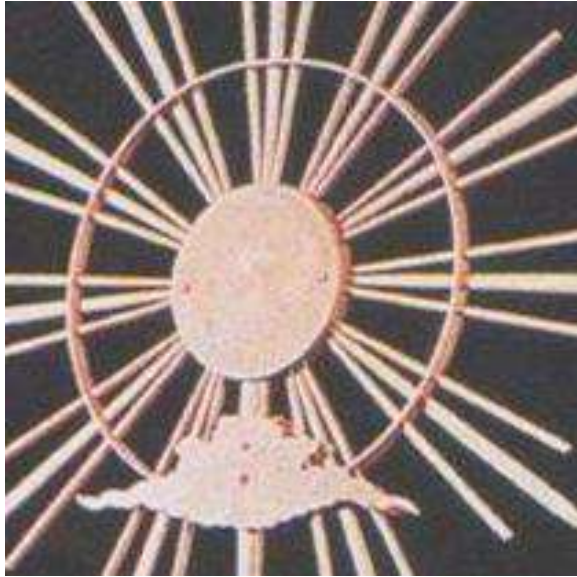
の紋様

○日は左肩

月は右肩

日に八咫鳥

D 天皇の礼服



○高く掲げた

日輪形(放射光)

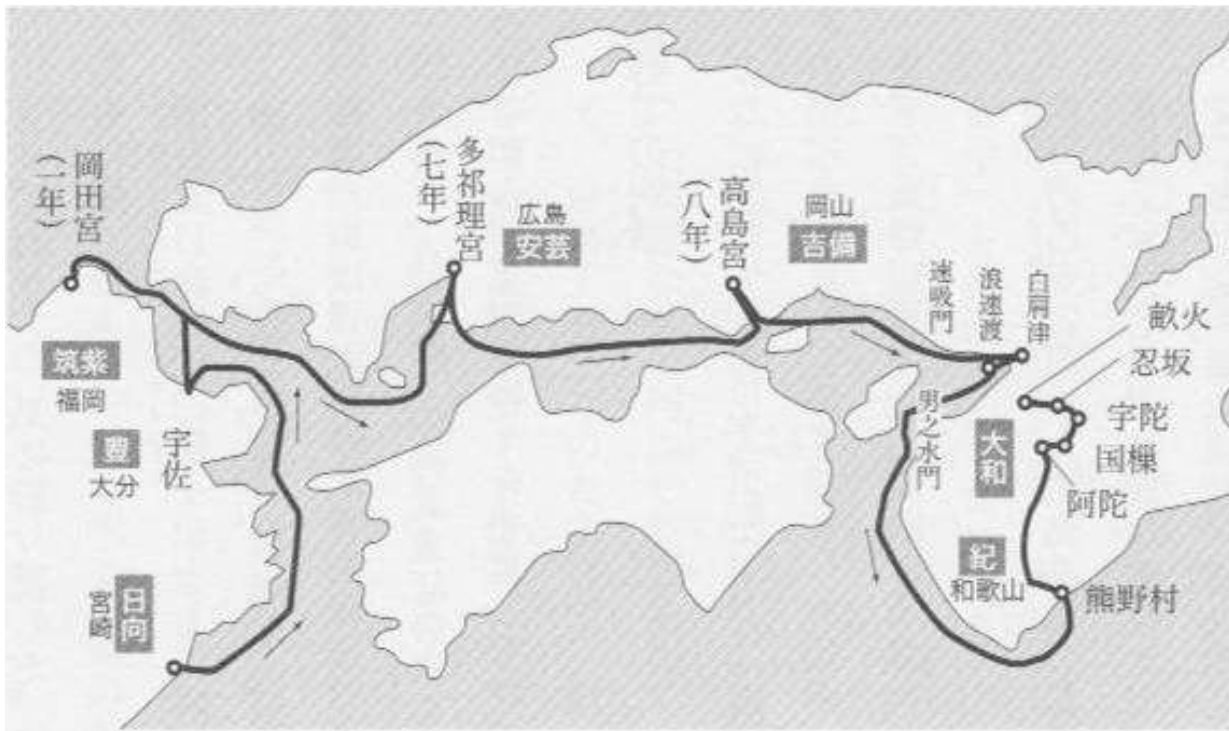
中に八咫鳥

孝明天皇冕冠(宮内庁)



4 神武東征と熊野の八咫鳥

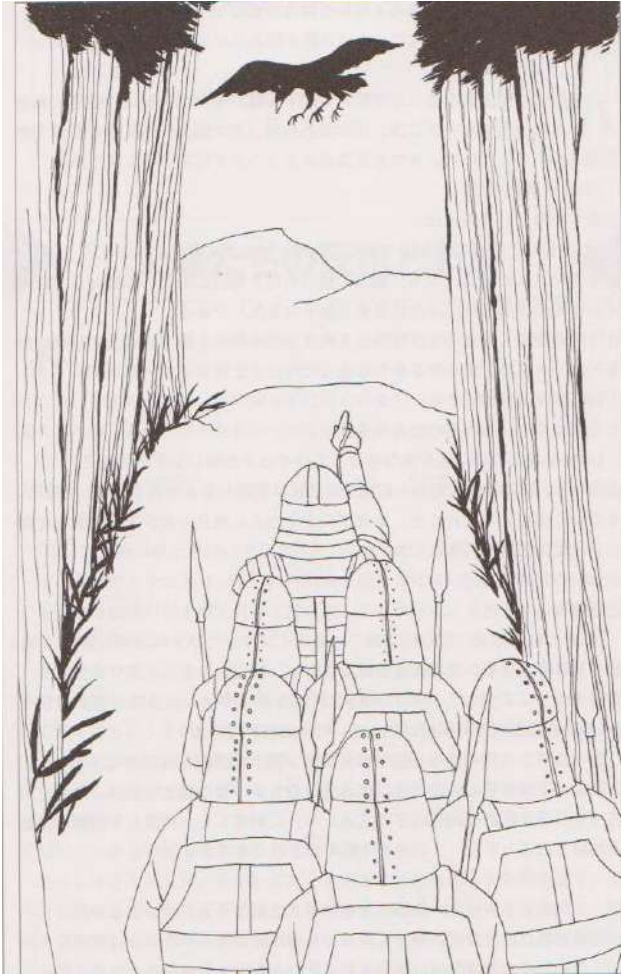
4-(0) 神武東征のルート



- 九州
- 瀬戸内
- 大坂（浪速）
- 紀国（男之水門）
- 熊野
- 大和

神武天皇の東征と大和平定路。『古事記』より

4-(1)『古事記』の伝承



○神武軍

○熊野村

○大熊出現

○天神から横刀
を高倉下に

○その横刀で神
武軍が蘇生

○高木の神が
八咫鳥を遣わす

○大和へ導き建国

4-(2)『日本書紀』の伝承



神倉山(新宮市)



○神武軍→熊野神邑
あまのいわたて

天磐盾(神倉山)

○暴風に遭い皇兄二人が入水
(常世へ)
にしぎとべ

○丹敷戸畔の毒気で氣力を失う

○天照大神の命で神剣を高倉下へ

○天照大神が頭八咫鳥を→大和へ

4－(3)八咫鳥の正体

A 八咫鳥の意味



○咫＝1手の広さ（約12cm）×2（両手）

○八咫（8 × 24cm）→2mあまり

◆「大鳥」（『古事記』）

◆「頭八咫鳥」（『日本書紀』）

B 八咫鳥＝鴨建角身命？

◆大鳥に化けて神武を案内（『新撰姓氏録』）

○賀茂氏の職掌（主殿として車駕行幸供奉）

○賀茂神信仰＝政治的

5 熊野三山の八咫鳥伝承

5-(0) 霊場 熊野三山



熊野三山の位置図

- 紀伊半島の南端
(辺境) = 熊野
- 三社個別の発祥
 - ・自然崇拝の社
- 神仏習合 (三山)
- 三山が共に十二所権現を
祀り合う (11世紀後半)
- * 日本を代表する山岳霊場

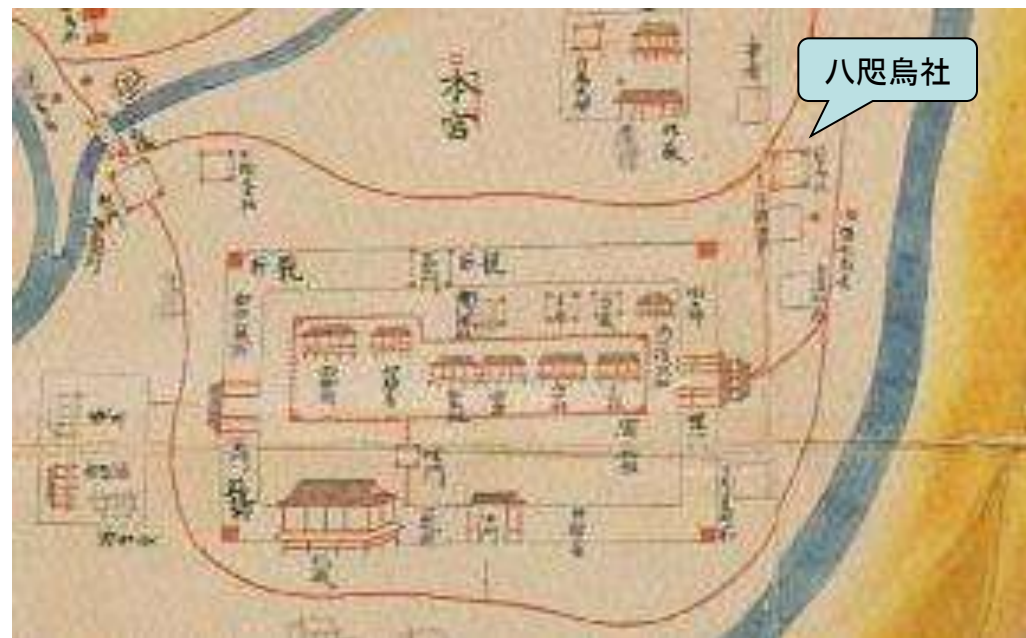
5－(1)本宮の烏倉と八咫鳥社

◆烏倉への奉納（『熊野権現金剛蔵王宝殿造功日記』）

- 白河院・二条師通の使僧
- 御幣・御花米
- 証誠殿・両所宝殿の烏倉に

* 烏に供え物、食べ方で
神意を占う

◆八咫鳥社（延宝8年〈1680〉
『熊野山絵図添目録控』）



熊野三山図

5－(2)新宮神倉山の八咫烏



神倉山ゴトビキ岩と背後の半洞窟（新宮市）

- ◆神武天皇の時、新宮神倉に
「頭八咫烏御」（『熊野三所権
現金峯金剛蔵王降下御事』）
- ◆神倉靈崛中に→八咫靈烏＝
熊野権現の使令＝頭八咫烏
は神（『寺門伝記補録』）
- ◆熊と八咫靈烏も権現垂迹
（『熊野山略記』）

＊神倉山＝天磐盾（神剣の在所）⇒八咫烏（熊野権現の化身・使令・垂迹）

5ー(3)那智光ヶ峯の八咫鳥伝承



那智大滝



光ヶ峯のご来光

- 太陽祭祀の山
- 那智三峯の一つ
- 放光伝承
- 那智大滝の丑寅
(北東)

- ◆八咫鳥が那智山東の光ヶ峯に祥瑞を現し、神武軍を援助 (『熊野那智神宮草創略記』)
- ◆「ミチノヤシルベト ヒカリガミネニヒカリアラウス
カラスガミ カラスガミ」 (「那智神社神楽歌」)

5－(3) 那智の扇祭と八咫烏帽

* 扇祭の主役・八咫烏帽



扇祭の扇ほめ神事

* 日と火と水のまぐわいの祭

〔那智の扇祭〕

- 7月14日
- 12体の扇神輿
- 太陽・12ヵ月
- 下部にヒオウギ草
- 光ヶ峯遥拝神事
- 扇ほめ神事
- 光ヶ峯の太陽の付与
- 日乞いの神事

5-(3) 八咫烏帽(那智滝衆のシンボル)



迎水神事の八咫烏帽

ご おう

- 熊野牛玉の迎水神事
- 光ヶ峯遥拝神事
- 扇ほめ神事

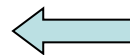


滝本の熊野牛玉調整神事？

◆「那智籠りの僧、烏頭巾に裏衣のすがた」(『熊野詣日記』)



那智滝千日行者のシンボル
(八咫烏帽)



5－(3) 那智山の烏石



烏石（熊野那智大社）

- 八咫鳥がこの石の上から姿を消した
- 若宮（天照大神）の前
- 鳥が首と翼をたたんで休む姿



那智参詣曼荼羅図（正覚寺本）の烏石

- 『那智参詣曼荼羅』にも
二羽の鳥と烏石

6 八咫鳥伝承の広がり

6-1 熊野牛玉宝印の烏文字



伊達政宗起請文

- 護符
- 除魔・息災
- 新春の祈念祭
(修正会)
- 牛玉 = 牛黄
病牛の結石
- 万能解毒薬
- 除災招福の呪力
- 裏に起請文

6ー(2) 日本サッカー協会のマーク

＊ 日本サッカー協会の標章



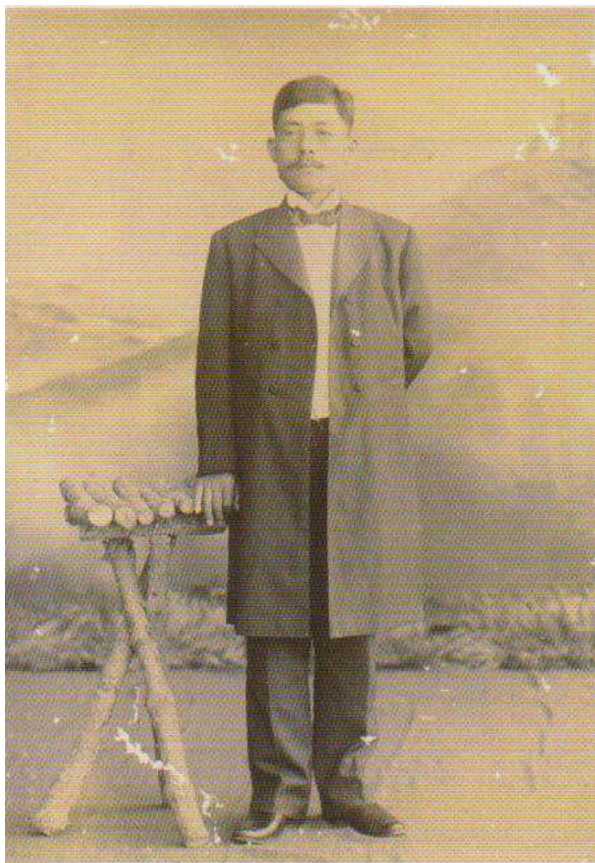
日本サッカー協会 (Japan Football Association)の標章

- 東京高等師範
学校の内野台嶺
教授の発案
- 当時著名な彫刻家
日名子実三氏が、
日本神話をもとに
デザイン
- 昭和6年（1931）6月
3日の理事会で採用

6ー(2) 日本サッカーと熊野の中村覚之助

＊ 日本サッカーの創始者

(1878～1906)



赴任先の（清）済南の写真館で撮影したもの

○明治11年（1878）

・和歌山県那智勝浦町生まれ

○明治33年（1900）

・東京高等師範学校入学

○明治36年

・『アソシエーション・フットボール』
を執筆出版

○明治37年 日本初の対外試合

○明治38年

・中国山東省済南師範学校に赴任

○明治39年 帰国途中に神戸で死去

7ー(1) 八咫鳥の宗教環境



熊野三千六百峰の山々(田辺市本宮町)

- 豊かな自然
 - ・山・川・滝・海
- 文化的景観
 - ・自然と人間
- 聖地の要件
 - ・超自然的存在の出現
- 日本第一大靈驗所
 - ・靈驗説話の宝庫

7ー(2) 八咫鳥の靈性



那智灣の夜明け

* 八咫鳥 → 熊野の他界観・再生観・
死生観・宗教観・世界観の象徴

① 奇怪な三足

・太陽の三光線 ・天地人

② 太陽の精

・天の神の中心 ・再生のシンボル

③ 皇室の信仰

・建国のヒーロー ・めでたい鳥

④ 異界の鳥

・靈魂を運ぶ ・魂の永遠性

⑤ 導きの鳥

・先導伝承 ・賢い鳥

⑥ 神の使いの鳥

・みさき鳥 ・神意を占う